

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2021-005
2.研究課題名	母語と第二言語の認知処理に影響する語種特性と個人差
3.研究期間	令和 3 年 6 月（倫理委員会承認後）～ 令和 4 年 3 月 31 日
4.研究の概要	言語は、人類と世界を繋がる紐帯であり、異なる価値観や文化の調和を保つ支点でもある。2 言語併用者は、それを支えている担い手として大役を果たしている。だが、馴染深い故地から離れ、外国にいて母語（first language: L1）と第二言語（second language: L2）を同時に使用する留学生にとっては、適切な言葉遣いをして異なる相手との意思疎通を実現する能力をさらに発展させていくために、L1 と L2 の語種特性や個人の知能及び行動・思考様式の違いによる影響を考えないといけない（Nisbett, 2001; 宮岡 他, 2011）。しかし、中国人日本語学習者の L1 と L2 の言語間認知処理に及ぼす上述した要因との関連を示す実証的な知見は、ほとんど得られていない。 そこで、本研究では、下記に示す脳波実験、神経心理検査及びアンケート調査を行い、中国人日本語学習者による中国語（L1）と日本語（L2）の認知処理過程を解明し、その処理過程に影響する語種の特性と個人差を検討する。外国人留学生の多様な個性を尊重する適切かつ効率的な 2 言語教育法の確立に貢献することを目指す。 1. 予備調査（オンライン）： ① 中国語の表現について、馴染み度評定などの予備調査を実施する。 2. 本実験（対面）： ① 言語間認知処理の脳波実験を実施する。言語処理の迅速さ（反応時間）と脳波の変化を計測し、その処理負荷を検討する。 ② 個人の知能や行動・思考様式などにかかわる神経心理検査を行う。これらの個人の特性が L1 と L2 の認知処理をどのように影響するのかを解明する。 ③ 中国人日本語学習者の日常生活と言語使用などに関わるアンケート調査を実施する。日本にいる中国人日本語学習者の言語使用実態及び個人の行動・思考様式に関連する要素を把握する。 方法 1. 予備調査（オンライン） ウィーチャット（WeChat）などの中国のソーシャルメディアを通じて拡散し、<u>中国にいる日本語学習歴のない中国語母語話者を 30 名程度募集</u>する予定である。日常的によく使用されている中国語の表現について、馴染み度評定などを行う。「問巻星」（Google フォームと似た機能を持つアンケート作成アプリ）を用いて作成し、インターネット上で実施する。 2. 本実験（対面） 健常な<u>東北大学在籍中の中国人日本語学習者 80 名程度</u>を学校構内の掲示等によって公募する。候補者に事前の十分な説明を行った上で自由意志での協力を求める。ただし、新型コロナウイルス感染防止のため、2 週間以内に、海外渡航歴があり、または県外移動歴がある方は本実験対

	象外となる。 なお、実験参加への謝礼として、研究室での実験・調査 1 時間につき 900 円分の謝金（銀行振込）または Amazon ギフトカードを支払う（本学学生への実験協力謝金規定による金額）。オンラインの予備調査の謝金については、クラウドソーシングサービスの規定に基づいて所要時間に応じて支払う。
	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 東北大学大学院文学研究科言語学研究室（022-795-5983） 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」 倫理審査委員会事務局（022-795-6103）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）